

# 射水市内の高齢者の福祉施設の認知度について

～特別養護老人ホームと介護老人保健施設の違い～

指導教員：教授 宮嶋 潔

担当学生：梅澤実那 山本佳奈

## I. 目的

私達は前期の実習で、福祉施設の違いについて職員に質問された時、答えることができなかった。介護福祉士を目指す私たちにとって福祉施設について事前に知っておくことは、将来就職活動をするための必要な情報である。また、現在、超高齢化社会で受け入れ可能な施設が減少傾向にあることや、家族側の経済的負担がかかることなどの問題があげられる。高齢者にとって自分の住み慣れた地域で、自分らしく人生を過ごしてもらうためにも地域の施設について、射水市在住の方々を知ってもらう必要があると考えた。そこで今回「富山コミュニティ論」を行うにあたって私たちは、地域の福祉施設について調査することにした。

## II. 方法

調査方法：「アル・プラザ小杉店」施設内において、調査用紙に基づき学生による聞き取り調査を実施。

調査対象：60歳以上のお客様20名程度。

倫理的配慮：本調査は、対象者に対して事前説明と同意を得て実施。本調査は無記名であり、本人が特定されないように配慮する。

調査日時：令和2年12月18日（金）14時～15時

調査場所：「アル・プラザ小杉店」一階：フードパーク・テレビ前・階段下の自動販売機前

調査項目：質問項目は、以下の通りである。

質問1：参加者の性別

質問2：参加者の年齢

質問3：参加者の住所

質問4：射水市内の高齢者福祉施設をいくつ知っていますか

質問5：射水市内の児童福祉施設をいくつ知っていますか

質問6：射水市内の障害者福祉施設で知っている施設はありますか

質問7：特別養護老人ホームと介護老人保健施設の違いを知っていますか

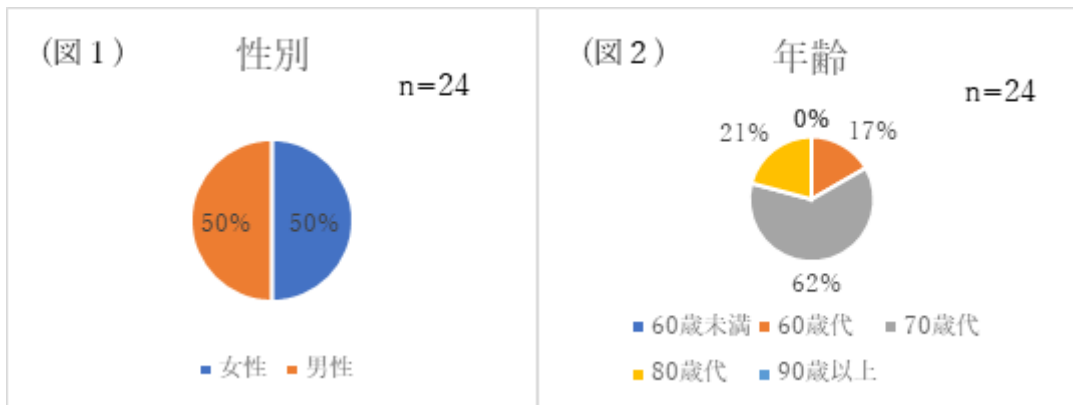
質問8：（質問7ではいと答えた方のみ）どのように知ったのか

質問9：施設の違いを知るメリットはあると思いますか

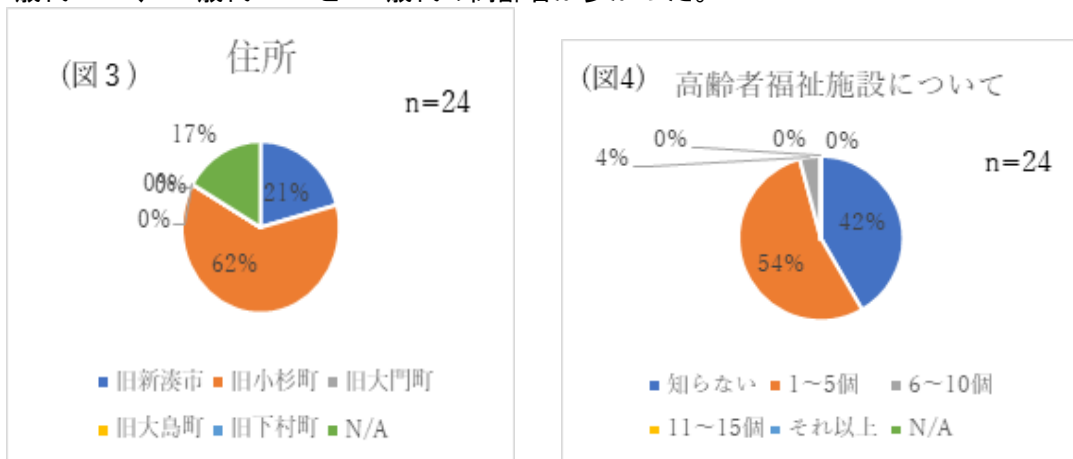
質問10：（質問10ではいと答えた方）どんなメリットがありますか

## III. 結果

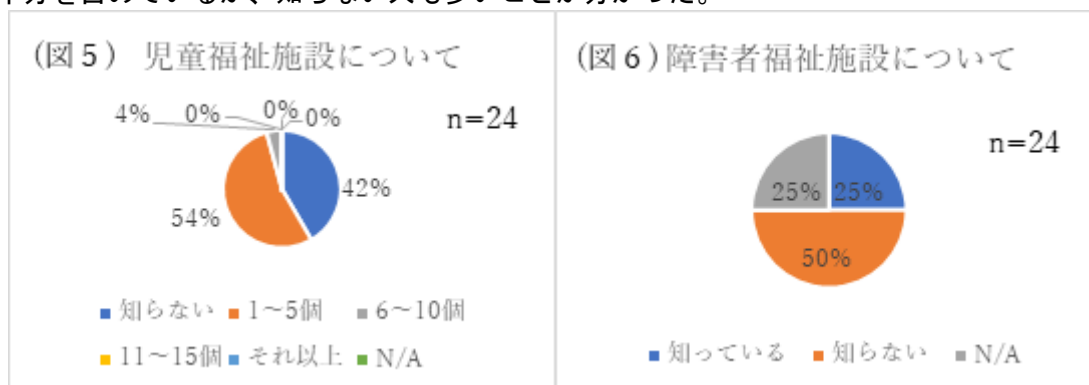
回答者は24名であり、内訳として60歳代が4名、70歳代が15名、80歳代が5名であった。



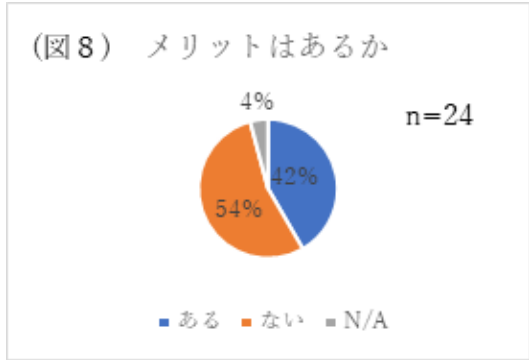
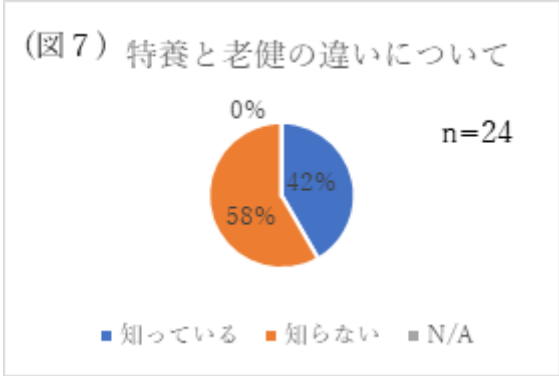
(図1)から、性別は女性 50%、男性 50%で同じだった。また、(図2)より 70 歳代 62%、80 歳代 21%、60 歳代 17%と 70 歳代の高齢者が多かった。



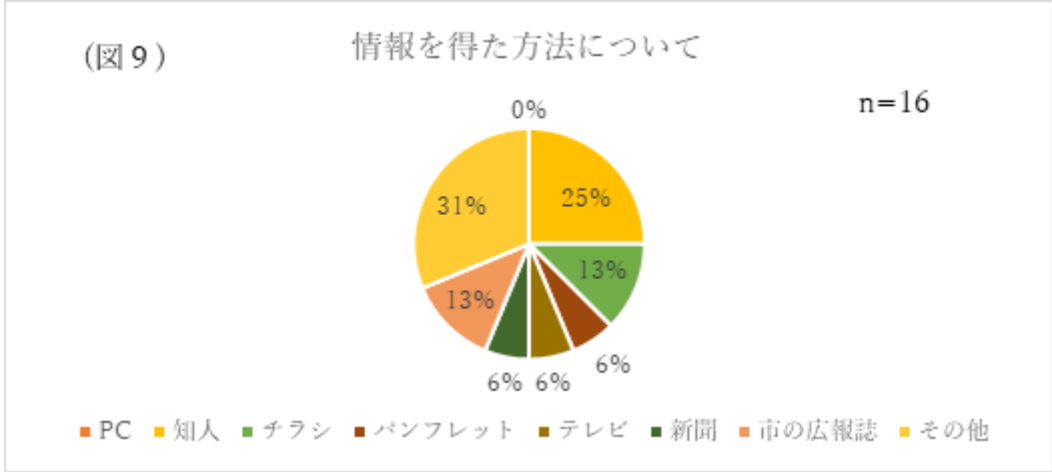
(図3)から、旧小杉町 62%、旧新湊市 21%、その他 17%で小杉町にお住まいの方が多いことが分かる。また、(図4)から高齢者福祉施設について「1~5個」知っている 54%、「知らない」42%、「6~10 個」知っている人が4%であった。1 個以上知っている人が半分を占めているが、知らない人も多いことが分かった。



(図5)から、児童福祉施設について「1~5個」知っている 54%、「知らない」42%、「6~10 個」知っている人が4%であった。「高齢者福祉施設」と同様に、「1~5 個」知っている人が多い。また、(図6)より障害者福祉施設について「知らない」50%、「知っている」25%、「その他」25%で、知らない人が半分を占めていることが分かった。



(図7)から、特別養護老人ホームと介護老人保健施設の違いについて「知らない」58%、「知っている」42%と知らない人が多かった。(図8)より、特別養護老人ホームと介護老人保健施設の違いを知ることによってメリットが「ない」54%、「ある」42%、「その他」4%でメリットがないと考えている人が多いと分かった。



(図9)から、特別養護老人ホームと介護老人保健施設の違いを知った方法について「その他」31%、「知人」25%、「チラシ」13%、「市の広報誌」13%、「テレビ」6%、「パンフレット」6%、「新聞」6%であった。

#### IV. 考察

(図4)、(図5)から射水市内の高齢者福祉施設と児童福祉施設について「1～5個」知っている人が54%、「知らない」人が42%、「6～10個」知っている人が4%であった。この結果から、1～5施設知っている人が多いと分かった。また、(図6)の障害者福祉施設については「知らない」人が50%、「知っている」人と「その他」が25%であった。高齢者福祉施設と児童福祉施設に比べて、障害者福祉施設は知らない人が多いと分かった。このことから、自宅付近に隣接していることや身内が通っているなどが、認知度が高かった理由に関係しているのではないかと考えられる。

(図7)の特別養護老人ホームと介護老人保健施設の違いについて「知らない」人が58%、「知っている」人が42%であった。情報を得た方法では、「その他」が31%、「知人」が25%、「チラシ」や「市の広報誌」が13%、「パンフレット」や「テレビ」、「新聞」が6%であった。「その他」の回答には、「自分が医療福祉関係の仕事だから」「自ら施設を訪れて知った」などの理由が挙げられた。(図8)の施設の違いを知ることによってメリットはあるかについては、「ない」が54%、「ある」が42%、「その他」4%であった。メリットがないと回答した人が多くを占めた理由は、回答者の年齢は70歳代が最も多く、まだまだ元気だから知らなくても良いと思っているからではないかと考えられる。また、高齢者

施設は費用が高いというイメージだけで、特別養護老人ホームと介護老人保健施設を一つにまとめられているのではないかと推察できる。



(写真 1)



(写真 2) \*聞き取り調査を行っている時の様子。

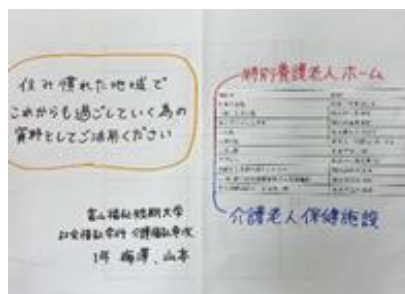
## V. まとめ

今回、射水市の福祉施設の認知度について調査をして、高齢者福祉施設や児童福祉施設に比べ障害者福祉施設は認知度が低いことが分かった。また、特別養護老人ホームと介護老人保健施設のの違いについては、知らない人が多いことが分かった。特別養護老人ホームと介護老人保健施設のの違いや福祉施設を知っている人の中には自分の親や知人が通っているからなどの理由から知っている人が多かった。しかし、「身近に施設がない」「周りに施設に通っている人がいない」など知る機会が少ない人もいたため、認知度が低かったと思う。今回調査を行ったことで、福祉施設についてだけでなく、特別養護老人ホームと介護老人保健施設のの違いについても知ってもらえるいい機会になったと思う。

また、特別養護老人ホームと介護老人保健施設のの違いを知ってもらおうと、手作りのパンフレット(写真 3,4)を作成し、回答していただいた方に渡し、とても喜んでいただき良かった。



(写真 3)



(写真

4)